

## 研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

肺の神経内分泌癌、腺癌、扁平上皮癌発生や分化における anti-proneural factor の関与

### 1. 研究の対象

2001年4月～2017年9月に当院で肺癌の手術を受けられた方

### 2. 研究目的・方法

肺の神経内分泌癌(NEC)は腺癌や扁平上皮癌と同様に気管支上皮から発生すると考えられているが、いずれの因子が分化の方向を決定しているのか未だ不明です。私たちは、先の研究において、胎生期の神経分化を促す proneural factor を調べましたが、肺では NEC の発生にあまり関与していない様でした(Masunaga A et al. J Clin Exp Pathol, 2016)。今回、その対側である anti-proneural factor (HES1～7, HEY1, HEY2, HEYL)が NEC への分化を阻止している可能性を想定しました。化学療法の視点で見れば、概して、神経内分泌癌の方が、非神経内分泌癌より化学療法が効きやすいという特性があります。また、近年では、anti-proneural factor が再発前立腺癌の初期に抑制されている事も分かり、分化より発癌に関与する可能性も示唆されています。そこで今回は、それらのメッセンジャーRNA(mRNA)のコピー数を定量的PCR法により、非腫瘍肺、NEC、肺腺癌および肺扁平上皮癌で定量し、統計処理を施して NEC ないし肺癌の発生に関与している可能性のある anti-proneural factor を推定します。あわせて、推定された因子について、可能な限り免疫染色を施行し、タンパクレベルでの発現の有無も評価したいと思います。

### 研究期間

2017年11月1日～2019年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術で摘出した組織（病理診断用パラフィン包埋材料、将来の検査・診断に備えて保管してある凍結検体）

情報：診療録から得た属性情報（年齢、性別、病理診断で判明した組織型、腫瘍径と病期）

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

所属：昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター 氏名：植松 秀護

住所：224-0041 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 電話番号：045-949-7000

研究代表者：昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター 氏名：植松 秀護